

アゴラ劇場「冬のサミット 2007」参加事業
弦巻楽団第6回公演「エブリシング・マスト・ゴー」東京公演を終えて

弦巻楽団代表 弦巻啓太

事業名 アゴラ劇場「冬のサミット 2007」参加事業
団体名 弦巻楽団 <http://www.t-gakudan.com/>
日程 2008年2月23日(土)～25日(月)
公演場所 東京・こまばアゴラ劇場
演目 「エブリシング・マスト・ゴー」 全4ステージ 観客動員232名

2008年2月23日～25日、我々弦巻楽団は初めての東京公演、財団法人北海道文化財団文化発信交流事業「こまばアゴラ劇場冬のサミット2007参加作品 弦巻楽団第6回公演『エブリシング・マスト・ゴー』」を行いました。

札幌以外の地で公演を行う、と言うのは劇団創設時からの目標でした。

ただ、その第一歩が東京になるとは思ってもみませんでした。元をたどれば我々弦巻楽団が2006年11月に「さっぽろアートステージ2006」舞台芸術部門シアター・ゴー・ラウンドにおいて「大賞」を受賞した事による、賞品としての思いがけない東京公演でした。



創設間もない我々にとって、その準備は途方も無い労力を要しました。移動・搬送・宿泊・現地調達品、またそこにかかる経費。あまりに未知数、未体験なことが山積したスタートでした。

約一年に及んだ東京の会場であるこまばアゴラ劇場との調整、また外部スタッフとして同行してくれた舞台監督さんの豊かな経験やアドバイスによって準備は進みました。

そのおかげで、直前の下見も無く現地に向かったのですが、荷物の搬送含めてスケジュール的には滞りなく進みました。天候にも恵まれました。

東京で公演を行うにあたって、現地の役者さんや劇場のスタッフさんと交流し、学んで

来たいという思いがありました。幸い、知人の紹介で東京で活躍するファンカスキャンパーズ009という劇団の親泊義朗さんと大橋美紀さんがゲスト出演して下さいました。

お二人は少ない日数での参加でしたが、稽古に参加する姿勢、演技の技術、方法論など、交流を持たせた事で学ぶ事がたくさんありました。

また、劇場のスタッフさんの大変に繊細かつ的確な対応、その劇場使用にあたっての細かいルールは非常に勉強になりました。人間同士のコミュニケーションだからこそ、劇場と劇団のやり取りをけして曖昧な「常識」で片付けず、理屈ある適正な解答を設定するその姿勢は感銘を受けました。住宅街であるにもかかわらず、こまばアゴラ劇場が高い稼働率を誇り、また他に例を見ないほど地方からの劇団を積極的に招聘し公演できているのは、そこに秘訣があるのだと感じました。

また、劇場スタッフさんからのアドバイスは、受付、お客様対応の面で新たな発見に富み、非常に勉強になりました。



本番にあたっては予想をはるかに越えるお客様にご来場いただき、初めての東京公演でしたが、幸福なステージとなりました。

お客様が俗に言う「芝居なれ」をしている空気を強く感じ、案内が必要ないのではないかと思うほどスムーズな客席誘導が出来ました。

驚いたと同時に、深く感心した点です。

終演後の感想では賛否合わせ、我々を全く知らない方の反応や、札幌では出会わなかった反応など、様々な感想を頂きました。

我々は札幌では数少ない王道の「シチュエーション・コメディ」をレパートリーとする劇団ですが、「シチュエーション・コメディ」としての強度を初めて問われた公演になりました。アンケートも非常に細かい、しかもっともな点を指摘するものが多かったです。正直予想以上の反応の良さで、札幌で培ってきた劇団の魅力に改めて自信を持ちました。反面、鋭い批判も勿論ありました。

自分の作品、劇団としての方向性、劇作の新たなビジョン、表現としての立ち上げ方、そういったものを総ざらいして、見直す機会を与えてくれました。東京と言う、新たな地での公演だからこそだと断言できます。

ただ、初めての遠征公演なのできっと大きなトラブルやアクシデントに見舞われるだろうという心配は全くの杞憂に終わりました。とても貴重な経験となる、幸福な公演でした。事前の打ち合わせや、徹底したシミュレーションが今回は全て良い方向に働きました。

今回、この得がたい勉強の機会と、札幌発のエンターテイメントを公演させていただく機会を作ってください、後押ししてくれた皆さんに深く感謝したいと思います。

この経験をこれからの公演活動に反映し、これからもより一層強度のあるエンターテイメントを創造していきたいと思います。